

第3回（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本構想検討委員会

会議録

場所	令和3年11月26日（金）13:30～15:10
日時	富士宮市役所 1階 112会議室
出席者	<p><現地出席></p> <p>委員 : 植松委員、小笠原委員、北垣委員、渡井委員、 諸星委員、片山委員、山本委員</p> <p>事務局 : 富士宮市文化財課 深澤氏、保竹氏</p> <p><オンライン出席></p> <p>オブザーバー : (株) 丹青社 真下、(株) 丹青研究所 大木、青島、外山</p>

内容

1. 開会	
○主催者挨拶	
2. 議事	
(1) 事業展開を踏まえた施設整備の考え方について	
① 第2回委員会をふまえた基本構想の修正箇所	
※一同、特になし。	
② 事業活動と施設整備（基本構想骨子 P.11～18）	
②-1 事業活動	
諸星委員	小中学校で一人1台タブレット端末が配布され、宿題などに活用している。せっかくなのでタブレット端末を活用して、自宅からも郷土の歴史に触れられる仕組みをつくれませんか。子どものみならず、家族で会話を交えながら、郷土の歴史に触れることが期待できるのではないかと。
小笠原委員長	教育普及の<展開例>に、学校の学習プログラムとの連動性を高めた取組を展開すると追加するとよい。
植松委員	教育普及事業に対する学芸員の負担を考えると、富士山学習など学習支援に対応する人員の確保が重要である。
北垣副委員長	普及プログラムに関連した資料の貸出を行うなど普及ボランティアを育成してはどうか。
事務局	地域の方々と連携も含めて検討する。
小笠原委員長	学校教育における博物館の活用方法が分からない先生方もおられるため、学校連携に対する学芸員の負担が重くなるケースもある。学校との人事交流なども取り入れながら、学校教育と連動した学習プログラムを開発していく必要がある。
事務局	「人づくりの拠点」として、学校教育との連携はぜひ取り組んでいき

	たい。
植松委員	博物館にとって学芸員による調査研究と展示公開が最も重要である。
小笠原委員長	植松委員のご意見を踏まえて、①の〈展開例〉に「学芸員による調査研究活動」という文言を盛り込んでどうか。
渡井委員	1. 収集保存①の〈展開例〉に「一元的に管理する」とあるが、人員削減につながるのではないか。
北垣副委員長	「一元的に管理する」とあると、資料を整理・集約すると捉えられるのではないか。
植松委員	富士宮の地域性をどのような視点で展示していくのか検討すべきである。
事務局	次年度以降、検討いただく予定である。
片山委員	展示テーマの検討は委員会形式で開催し、幅広く意見を聞きながら検討してほしい。
事務局	企画展のテーマを検討するため、博物館展示検討委員会の設置を盛り込みたいと考えている。
②-2 施設整備	
渡井委員	調査研究部門に古文書類の整理を行うための「歴史資料整理室」を追加してほしい。
諸星委員	コロナ対策などのためにも、入口付近に手洗い場が必要ではないか。
(2) 事業スケジュール	
片山委員	立地によって博物館のあり方も変わるのではないか。
事務局	次回の検討委員会では、具体的な候補地をお示ししながら検討いただく。
諸星委員	入館料は徴収するのか伺いたい。
小笠原委員長	利用者負担は求めるべきである。
渡井委員	小中学生等は無料という施設もあるのではないか。
事務局	減免対象も含めて、今後、検討する。
北垣副委員長	資料を安全に収蔵・保管することが博物館整備の目的であるならば、整備中の資料を避難させておく手立てを検討する必要がある。事業スケジュールに盛り込むべき。
植松委員	基本計画の策定年を記載すべきである。
事務局	表記の仕方を検討する。